

# 府中ホスピスを考える会通信 第12号 10/05/02



## 平成21年度の『陳情書』署名活動報告と「講演会」開催について

小西 厚子

平成21年度の重点活動であった府中市長への『陳情書』の署名活動は、会員の皆様や家族・友人・知人等から、また、8月の商工まつりや平和まつり、11月14・15日の第7回「府中NPO・ボランティアまつり」に参加した他団体会員や一般市民の皆様からも署名していただきました。

11月15日（日）には、フォーリス1階会場で役員をパネリストにして、『ホスピスケアの核となる施設の実現に向けて』と題して、考える会が提案する「ホスピス」について参加者の皆様にお話しました。

野口府中市長への『府中市にホスピスを設置する為の支援を求める陳情書』は、11月27日に7200名の署名をまとめて提出しましたが、その後追加分を整理して1月15日に1963名、合計で9163名の署名者の願いを府中市長に届けました。会員の皆様のご協力、署名をしていただいた皆様に心から感謝申し上げます。

また、この市長への『陳情書』に加えて、府中市議会にも『陳情』することを役員会で決めて、11月24日に高野府中市議会議長あてに『陳情』を提出いたしました。この『陳情』は市議会の厚生経済委員会に付託されて、12月7日に同委員会で採択され、12月14日の第4回定例会・本会議での審議の結果で採択されました。市議会議長から、『陳情』が12月17日付けで市長に送付された旨の通知を受けました。この『陳情』については、平成22年2月2日発行の『ふちゅう市議会だより』に報告されています。

考える会の設立以来、私たちの住む府中市に「ホスピス」がほしいという会員の願いを実現するために行ってきた活動は、ここに一つの大きな結果を達成したことになると思います。

そこで、広く一般市民の皆様にも、考える会の活動及び「ホスピス」・緩和ケアについての理解を深めていただくために、本日、5月2日（日）、午後2時30分より、ルミエール府中 コンベンションホール飛鳥において、府中市より後援をいただいた次の「講演会」を開催することになりました。

講演会『府中에서도実現したい 地域で家庭で ホスピス・緩和ケア』

講演1：「地域で取り組む緩和ケア」 ケアタウン小平クリニック院長 山崎 章郎氏

講演2：「生きる想いを支えるホスピス・緩和ケア」 聖路加国際病院理事長 日野原重明氏

この「講演会」の講師をお引き受けくださいましたお二人の先生は、「ホスピス」に関しては日本における最高の先駆者であり、お二人揃っての講演をお聴きできるのは、私たちにとって幸運な機会です。

日野原先生には、考える会の設立当初からご支援をいただいていること、考える会の会員の中に家族が桜町病院のホスピス医でいらした山崎先生にお世話になって今もご縁をつないでいる等々、いろいろなご縁の賜物がこの「講演会」の開催を可能にしました。考える会のために講師をお引き受けいただいたことを、深く感謝しております。

「講演会」にご参加の皆様とご一緒に、しっかり講演をお聴きして勉強したいと思います。

「考える会通信 第12号」は、上記の「講演会」に合わせて発行することにして、会員と共に参加者の皆様にも考える会の今年度の活動をお伝えする内容記事を編集しました。



## 第7回 府中NPO・ボランティアまつり 参加報告

平成21年11月14日(土)、15日(日)に開催された第7回府中NPO・ボランティアまつりに参加しました。

主会場の府中グリーンプラザ5階のブースでは、「ホスピスを知ってください!」というテーマのもとに、パネルの展示やホスピスに関するDVD映写などを2日間行いました。

15日(日)、14:00~14:30には、フォーリス1階会場で、平成21年度の考える会の活動の中心であった『陳情書』への署名活動に関連したパネルディスカッションを開催しました。資料として作成した「ホスピスを知ってください」、「ホスピスケアの核となる施設の実現に向けて」を参加者に配布して、その内容をわかりやすく説明して、会場外のけやき並木で行った『陳情書』への署名を呼びかけました。

内容は以下の通り。

テーマ：ホスピスケアの核となる施設の実現に向けて

1. 小西厚子(司会) 「府中ホスピスを考える会」及び『陳情書』署名活動について。
2. 市村晴子 「ホスピス」、終末期医療の場、ホスピスケア・緩和ケアの現状について。
3. 小沢幸治 なぜ、ホスピスケアの核となる施設が必要なのか、について。
4. 平松ふじ子 ホスピスを考える会が提案する「ホスピスケアの核となる施設」について。
5. 市原美幸 「在宅支援診療所」、「ホスピスケア」、「ホスピスクリニック」について。

以下は作成した資料です。

## ホスピスを知ってください!

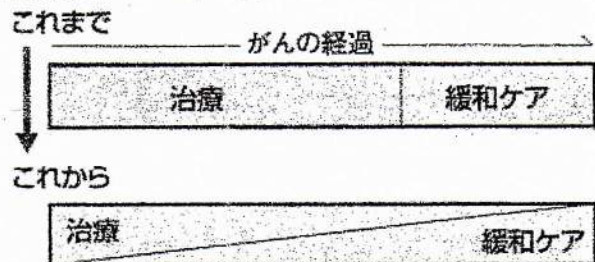
「ホスピス」は、日本では、主としてがん患者の終末期医療・緩和ケアの施設(緩和ケア病棟)として理解されています。

最近では、患者が自分の家で最期を迎える「在宅ホスピス」もふえています。府中市では、年間約500人ががんで亡くなっています。

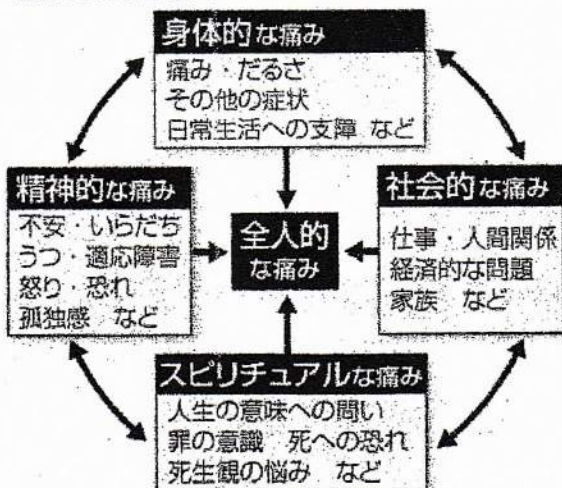
「がんによる苦痛と緩和ケア」情報編—朝日新聞「患者を生きる」より

緩和ケアは、かつて治癒が望めない患者やその家族が対象になるとされ、「治療からのギアチェンジ」ともよばれた。ぎりぎりまで治療し、方法が尽きた段階で切り替える、という考え方だ。しかし、最近は、病気の早い段階から治療と並行して、それぞれの患者の状況に応じて提供されるべきもの、といわれるようになってきている。

### ■緩和ケアの考え方



### ■がんによる痛み



緩和ケアの対象は、身体的な痛みだけでなく、孤独感や死への恐れ、仕事や家族の問題など「全人的な痛み」だ。従来の診療科にとどまらず、幅広い専門性と視野が必要になる。チームは、主治医や病棟の看護師を通して患者や家族の希望を聞いたうえで、実際に会い、一人ひとりの診療計画をたてていく。患者の多くは、抗がん剤や放射線などを含めた治療を続けている。その点で、積極的な治療を基本的に行わないホスピスなどでのケアとは異なる。患者だけでなく、家族の心のケアも重要だ。ホスピスや緩和ケア病棟、地域医療とも連携し、より質の高い生活を送れるよう支援していく。(田村建二、五十嵐道子)抜粋



## ホスピスケアの核となる施設の実現に向けて

わが国では全死亡者の3~4人に一人ががん死であると言われ、府中市内でも500人以上(平成19年度、府中市統計書)が亡くなり、年々増えています。しかしながらわが府中市において、誰でもが迎える人生の最期を看取る終末期医療やケアについての理解は、医療専門家や一般市民の間にも十分とは言えません。

今、患者本人の非常な痛みや苦しみと不安、そして家族の肉体的また精神的な重荷を伴う、終末期の医療を援助するために、国内外でホスピスケアが注目され実行されています。私たちは、終末期を迎える方や家族におおきな慰めと希望を与える社会を創りたいと考え、ここ府中市にホスピスケアの核となる施設を実現したいとの願いをこめて活動を行っていききたいと思います。

「府中ホスピスを考える会:代表 小西厚子」

最期の日々を地域で過ごすためのサービスを福祉職とともに、ここでくらす私達ボランティアもサポートしてゆきます。



### 在宅療養支援診療所

24時間体制で往診や訪問看護を実施し、自宅での在宅ホスピスや慢性疾患の療養などへ対処してゆきます。



### ホスピステイケア

ゆったりとした時間を過ごしていただける家庭的な設備と雰囲気の中で、レクリエーション・軽食・入浴の提供を行います。また、日常生活の中での自立性や身体機能の向上のために、個別リハビリテーションを受けることができます。



### ホスピスクリニック

がん末期、難病、脳血管障害、心疾患などの疾患をもつ方々が、できる限り住み慣れた地域で療養しながら安心して過ごすことができるように、医療・福祉・介護のサービスを総合的に提供し、チームで支援していきます。

病があっても、地域で最期までその人らしく過ごさせる。そんな街をめざして市民の皆さんと一緒に府中にホスピスケアの核となる施設をつくりましょう。



## 府中ホスピスを考える会講座実施歴

	日付	テーマ	講師	(敬称略)
特	01/10/28	がんと向きあったとき、あなたならどう生きますか	聖路加国際病院名誉理事長	日野原 重明
1	02/02/17	「ホスピスの体験から」	ピースハウス病院ナース	杉本 真由美
2	02/04/28	「在宅ホスピスケアについて」	ピースハウス病院ナース	杉本 真由美
3	02/07/14	「緩和ケアで使われる薬について」	薬剤師(元ピースハウス病院職員)	玉井 照枝
特	02/10/11	アサヒタウンズ特別講演会「日野原先生」		
4	02/11/24	「心と身体の痛みを癒すには」	くらしき作陽大学教授	篠田 知璋
5	03/05/18	地域に密着した在宅ケアについて	平林医院院長	平林 竹一
6	03/06/10	ホスピスセミナー	桜町聖ヨハネホスピスケア研究所長	山崎 章郎
7	03/08/03	「ヨーロッパのホスピス事情」	府中ホスピスを考える会副会長	市村 晴子
8	03/10/26	家で最期をむかえるために-在宅ホスピスケアの実際	ホームケアクリニック川越院長	川越 厚
9	04/04/18	「家族の立場からホスピスケアを見る」	府中ホスピスを考える会会員	駒ヶ嶺 泰秀
10	04/09/10	輝いて生きる-人生の後半を-	聖路加国際病院名誉理事長	日野原 重明
11	04/11/07	コミュニティで考えるこれからのホスピスケア	聖ヨハネホスピスケア研究所研究員	長谷 方人
12	05/06/05	夫をガンで見送って-入院治療3ヶ月後の不安-	府中ホスピスを考える会会員	森山 レイ子
特	05/09/24	地域で生きる-尊厳ある生と死を求めて	聖ヨハネホスピスケア研究所長	山崎 章郎 他
特	05/10/30	いのちと響き合う絵本	ノンフィクション作家	柳田 邦男
13	05/11/26	更年期障害と子宮癌	東府中病院長	十蔵寺 新
14	06/03/26	人間のいのちと死-終末期医療からみる	医学博士・医療法人恵風会施設長	渡邊 寛宣
15	06/05/21	千倉市『花の谷』(ホスピス)の紹介	府中ホスピスを考える会副会長	市村 晴子
16	06/08/20	NHKビデオによるホスピスに関するQ&A	府中ホスピスを考える会副会長	市村 晴子
特	06/09/09	永六輔 いのちを語る	ケアタウン小平・聖ヨハネホスピスケア研究所共催	
17	06/11/11	ときめく「命(いのち)」をいきる	青山学院大学講師	野村 祐之
18	07/04/01	さいごまで生きる施設-ホスピス-でのとき	ライフプランニングセンター所長	平野 真澄
19	07/06/24	「いのち輝かせて生きる」-こどもから老人まで	聖路加国際病院名誉理事長	日野原 重明
特	07/10/13	鎌田実 いのちを語る	ケアタウン小平・聖ヨハネホスピスケア研究所共催	
20	08/01/20	「地域におけるホスピスケア」-患者と家族の心を支える-	医療法人社団イバラキ会	高野 和也
21	08/05/25	「ホスピスケアにおける訪問看護の役割」	医王訪問看護ステーション地域専門看護師	宮田 乃有
22	08/08/03	阿伎留医療センター緩和ケア病棟の現状	公立阿伎留医療センター緩和ケア科・医師	戸澤 育文
23	09/01/25	ビデオによる「ホスピス緩和ケアの歩み」	府中ホスピスを考える会副会長	市村 晴子
24	09/05/17	府中市における訪問看護ステーションの現状	府中市医師会訪問看護ステーション所長	芝尾 幾世
25	09/11/15	ホスピスケアの核となる施設の実現に向けて	ボランティアまつりパネルディスカッション	会の役員
26	10/05/02	府中でも実現したい 地域で 家庭で ホスピス・緩和ケアを	ケアタウン小平クリニック院長 聖路加国際病院理事長	山崎章郎 日野原 重明

会計より会員の皆様へのお願い 会費の払い込みをどうぞよろしくお願いします。

会計 宇田ひさ子 042-363-9271

編集後記 今年度、考える会は、府中市長への「府中市にホスピスを設置する為の支援を求める陳情書」の署名活動を行い市に提出、市議会にも「陳情」して採択されました。会員の皆様のご協力を感謝します。

「通信」編集委員 小西、荒川、駒ヶ嶺、市原、和田

発行元 府中ホスピスを考える会編集部 連絡先 小西厚子 042-361-2823